

甲府城跡(舞鶴城公園)(甲府市) 築城年代:天正11年(1583年)、築城者:徳川家康

これは南側から北東方向に見た甲府城跡



同じく北方向に見た甲府城跡



同じく北西方向に見た甲府城跡



水堀を西側から東方向に見たところ



左手から水堀を渡って城内に入る



右手方向が日本庭園や自由広場となっている「鍛冶曲輪」

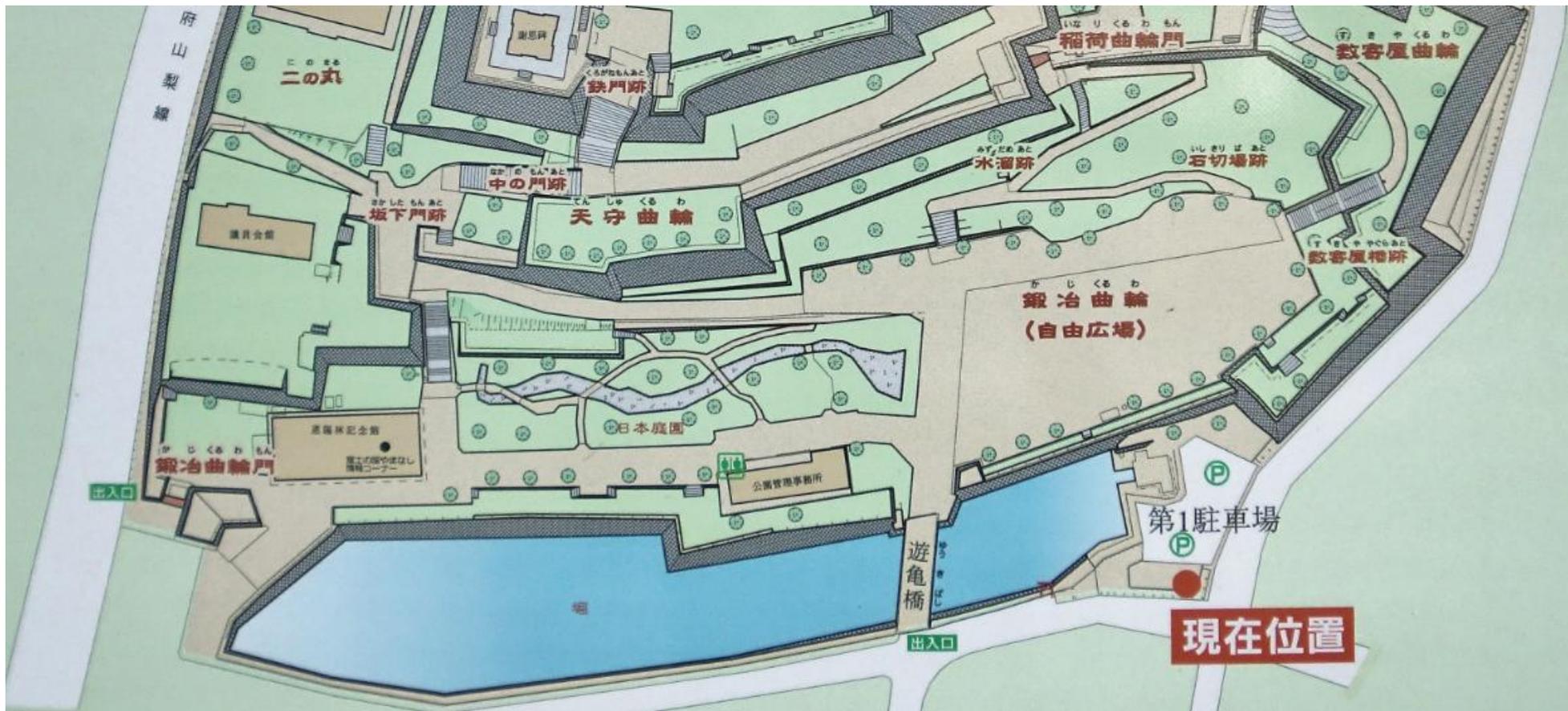


この建物は恩賜林記念館



さて、「鍛冶曲輪門」→「鍛冶曲輪」→「坂下門跡」→「二の丸」→「中の門跡」→「天守曲輪」→「稻荷曲輪」→「稻荷曲輪門」→「数寄屋櫓跡」→
「数寄屋曲輪跡」→「庄城稻荷跡」→「本丸櫓跡」→「本丸」→「天守台」→「鉄門跡」→「内松陰門」の順で見てみよう





まず、ここが「鍛冶曲輪門」



前方に説明坂がある



ここから「鍛冶曲輪」へと進もう



か じ くる わ もん 鍛 冶 曲 輪 門

か じ くる わ がく や くる わ もん めい し はし
鍛 冶 曲 輪 と 楽 屋 曲 輪 を つ な ぐ 門 で す 。 明 治 の 初 め ま
で は 残 っ て い た も の を 絵 図 や 発 掘 調 査 の 成 果 を も と に 、
へい せい ねん ふく げん
平 成 8 年 に 復 元 し ま し た 。

Kajikuruwamon Gate

This is the gate that connects Kjikuruwa and Gakuyakuruwa. Through excavation research and old paintings, we can see the gate remained until the beginning of the Meiji era, although it collapsed shortly thereafter and underwent renovation in 1996.



門を潜った正面



振り返って見たところ



そこで左手を見たところ



まっすぐ進み恩賜林記念館を通り過ぎた所が日本庭園となっている「鍛冶曲輪」/左手に3段になった石垣と謝恩塔が見える



この階段を登って左手に折れると「坂下門跡」に至る/後程行ってみよう



ここは東方向に進んだ所にある自由広場となっている「鍛冶曲輪」/前方に「数寄屋曲輪」に登る階段が見える



その階段をアップで見たところ/この上が「数寄屋曲輪」で右手が「数寄屋櫓跡」/こちらへは後程行ってみよう



左手を見ると「天守曲輪」の石垣が見える/右下に井戸のようなものがある



「天守曲輪」の石垣下を西方向に登って行こう/左手が「坂下門跡」方向



高石垣を見上げたところ



ここが「坂下門跡」/前方に説明坂がある



さか した もん あと
坂下門跡

鍛冶曲輪と天守曲輪・二の丸をつなぐ門です。江戸時代の本『裏見寒話』には、城を建てる前にあった一蓮寺の門を使用していたとあります。

Site of Sakashitamon Gate

This is the gate which connects Kajikuruwa, Tenshukuruwa and Ninomaru. It is written in Uramikanwa, a book from the Edo period (1603-1867), that the gates of the former Ichiren Temple were used when building the castle.



前方左手の建物が見える所が「二の丸」/すぐ右手に折れると「中の門跡」/謝恩塔の立っている所は「本丸」のエリア



左手のこちらが「二の丸」



右手のこちらが「中の門跡」/前方に見える建物は「鉄門跡」に復元された鉄門



この建物は「二の丸」にある武徳殿



右手を見ると「本丸」のエリアに立つ謝恩塔が見える



本丸の石垣は3段構造になっている/この先に進むと「内松陰門」がある/そちらへは後程行ってみよう



反対側から石垣を見たところ



こちらは「中の門跡」/左手に説明坂がある



なか もん あと
中の門跡

てん しゅ くる わ ほん まる つう もん え す さく もん
天守曲輪・本丸へ通じる門です。絵図には柵の門として描かれています。

Site of Nakanomon Gate
This gate connects Tenshukuruwa to the castle's main enclosure.
Paintings show it was a fenced gate after the middle of the Edo period (1603-1867).



階段を登った所が「天守曲輪」/左手の階段は「鉄門跡」へ登る階段



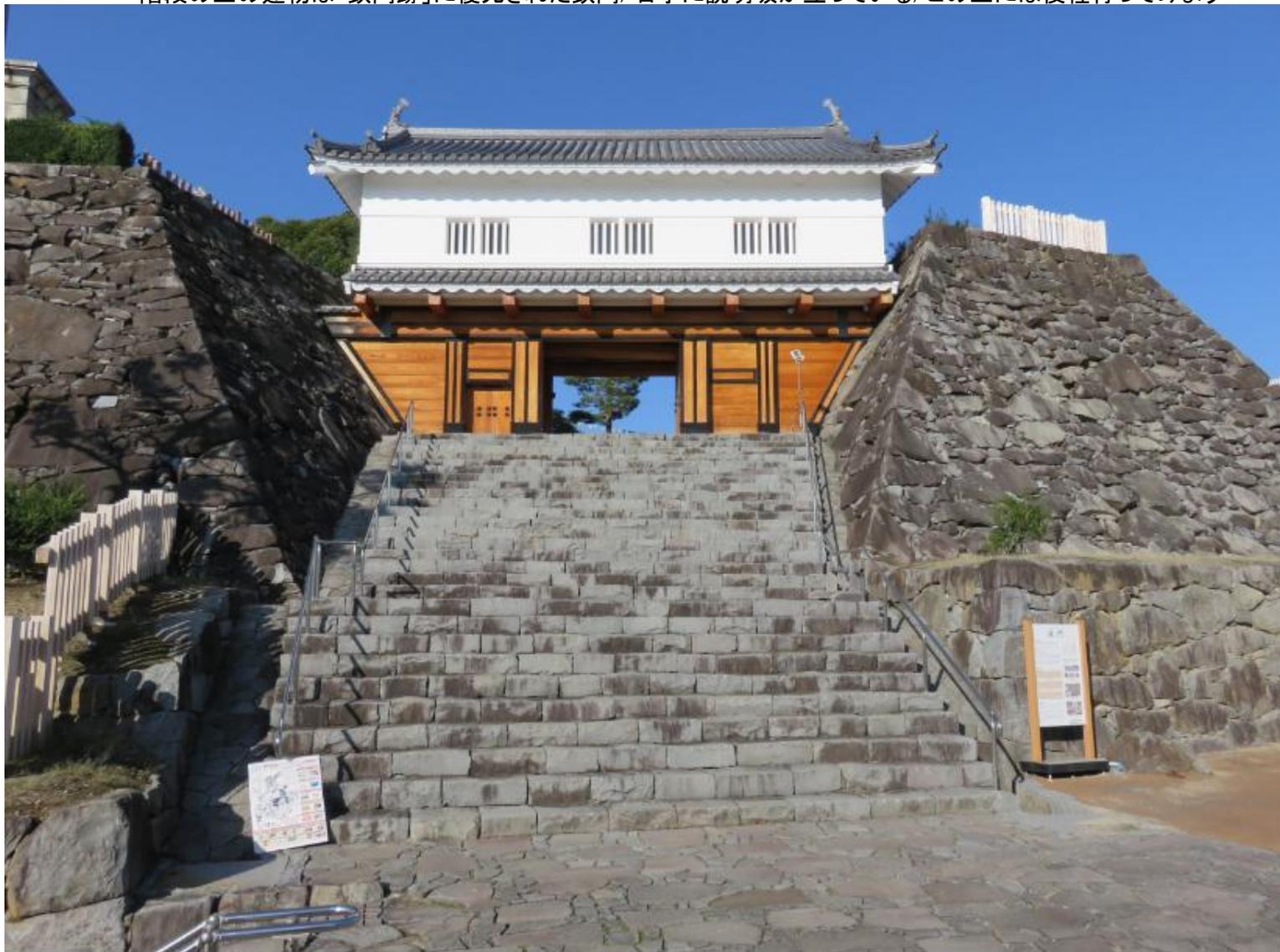
振り返って「中の門跡」を見たところ



そこで左手を見ると櫓跡のようなスペースがあった



階段の上の建物は「鉄門跡」に復元された鉄門/右手に説明板が立っている/この上には後程行ってみよう



くろがね もん 鉄門

甲府城の歴史

今から110年前、徳川幕府の命により浅野長政（平将軍）によって甲府城は築城されました。幕府は、江戸の徳川家康を祀る目的でしたが、江戸幕府の崩れと共に徳川一門や幕府臣の居城となりました。

鉄門復元整備事業のねらい

かつて城下町から見上げた鉄門は、城内外に城内の建物と共にすべて破壊されてしまいました。この鉄門を復元し歴史景観を再現することは、甲府城跡の歴史的回廊や景観をより認められると考えられています。また、甲府中心市街地からの眺望は、新たな魅力と人目を惹き、城下町甲府の発展と活性化に促すものと期待されます。

復元の流れ

調査・研究

城跡・出土品、史料などの資料調査や、遺構の発掘調査を実施しています。資料など、調査等により基礎資料と、鉄門復元計画の立案を行い、復元事業をすすめています。

発掘

発掘する部分の調査、調査計画を進めました。また、発掘の目的に鑑み、発掘現場を、鉄門の姿かたちを再現しています。平時、発掘現場、発掘資料の公開、展示等を行っています。

工事

土木系・電気系・付帯工事など、土木工事は完了済みです。また、発掘現場、工事進行、発掘現場、発掘資料の公開、展示等を行っています。発掘現場の出土品や、発掘資料の公開、展示等を行っています。

工法の現状

鉄門は、従来の工法にこだわらず工法を柔軟にしていますが、発掘の建築基準法と照らし合わせると、耐震性や防火性を確保する必要があります。

そのため、発掘の一部に、鋼製材としてコンクリートや鉄骨を使用しています。発掘現場に入ると、鉄門委員会が設置した、発掘現場の歴史的回廊のなごりを感じることができます。しかし、発掘現場を復元するために必要な工事であり、従来の土造と異なる工法の採用として、発掘現場に設置されています。



発掘調査によって発掘された鉄門の礎石（土壌改良と基礎の調査）



発掘現場に設置された鋼製材から、遺構の姿かたちを再現しました。



鉄門復元計画の作成による調査結果



鉄門の基礎工事の様子

山梨県教育委員会
埋蔵文化財センター

さて、「天守曲輪」から東方向へ進んでみよう



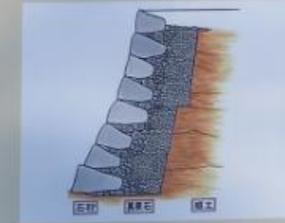
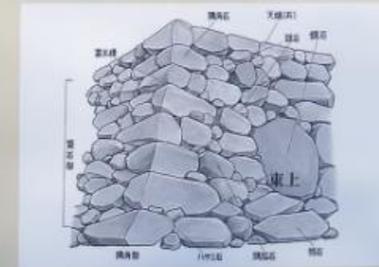
ここは「本丸」エリアにある「天守台」の南東隅の石垣/正面に説明坂がある



いし がき こう ぞう 石垣の構造

隅角部 (石垣の角) には石垣の重みが集まるため、石材の長短を交互に組み合わせて積む算木積みという手法で積まれています。

Ishigaki no kouzou (The stone wall's structure)
Focusing on the strength of the stone wall's corners, the strongest rocks were stacked together.



右手を見ると小規模な建物跡のようなスペースがあった



これはそこで振り返って北方向を見たところで、「天守台」の石垣を回り込んで進む/石垣の隅角部の「算木積み」が見て取れる



少し進んだここは「天守台」の北東隅の石垣の所で、左手を上って行くと「本丸」、右手を下って行くと「稲荷曲輪」へと至る



さて、「本丸」、「稲荷曲輪」へ行く前に最初の「鍛冶曲輪」からこの階段を登って「数寄屋曲輪」、「数寄屋櫓跡」へ進んでみよう



振り返って自由広場となっている「鍛冶曲輪」を東側から西方向に見たところ



すると、右手の斜面に「石切場跡」があった/右手に説明坂がある



いし きり ば あと 石切場跡

甲府城の石垣の石材はこのような岩山からも切り出しました。岩盤の表面には、石を切り出すための、古い楔の跡が残っています。

Traces of Ishikiriba (A place for cutting stones)
Most stones used for the stone walls of Kofu Castle were chipped off from the bedrock of Ichijoko Mountain. Evidence of old techniques used for rock cutting remain on the surface of the bedrock.



1705年頃の甲府城 (『東国史略』より)

こんな塩梅



さて、ここが階段を登った所の「数寄屋曲輪」/説明坂がある



す き や やぐら あと べっ しょう たつみ やぐら
数寄屋櫓跡 [別称：巽櫓]

じょうない もっと ひがし がわ た やぐら めい じ しょ ねん のこ
城内で最も東側に建てられた櫓で、明治初年までは残っ
ていたことが古写真でわかっています。

Remains of Sukiyayagura Turret (also known as Tatsumi Turret)
This is a turret constructed on the eastern side of the castle interior. Through old photographs it can be gathered that the gate remained until the beginning of the Meiji era.



1705年頃の甲府城 (『寛政年間』より)

右手のここが「数寄屋櫓跡」



反対側から見たところ



そこから「本丸」方向を見たところ



左手の「鍛冶曲輪」を見下ろしたところ



さて、このエリアが「数寄屋曲輪」のエリア/南東側から北西方向に見たところ



北西方向に進み、土塀の間の先に出た所が「稲荷曲輪」のエリア



ここが「稲荷曲輪」東側/東側から西方向に見たところ



正面は「天守台」の石垣



その手前のこの辺りが「庄城稲荷」があったと云う/足元に説明坂がある



しょうじょう いな り あと
庄城稲荷跡

ここには築城以前から、一条小山の守護とも言われて
いる庄城稲荷がありました。現在は移転して、遊亀橋の
東側にあります。

Shojo Inari Ato
Shojo Inari stood here as the deity that protected this area before the castle was
built. The deity has been moved to the east of Yuki Bridge.



その左手に「稲荷曲輪門」がある/門の外へ出てみよう



これが下から見上げた「稲荷曲輪門」



説明坂がある/正面は「天守曲輪」の先を東方向に進んだ所にあった小規模な建物跡のようなスペースの石垣



いなりくるわもん 稲荷曲輪門

稲荷曲輪と鍛冶曲輪をつなぐ門です。発掘調査によって、
柱の跡などが見つかりました。享保の火災でも焼けず、明
治初年までは残っていたものを、平成11年に復元しました。

門の形式 単層門 入母屋造り 瓦葺き 東側に土堀付き
門の規模 開間八尺九寸 控柱間六尺貳寸(間口2.7m×控え1.9m)

Inarikuruwamon Gate

This gate connected the Inari Enclosure and the Kaji Enclosure. It survived into the early Meiji era and was restored in 1999 in accordance with the paintings and the findings from the excavation.



小規模な枡形になっている



右手を見たところ/ここを下って行くと先に見たの「石切場跡」や「水溜跡」がある



正面の石垣



右手を見ると「稲荷曲輪」東側



その「稲荷曲輪」東側を西側から東方向に見たところ



これは左手にある「二重の石垣」/説明坂がある



に じゅう いし がき 二重の石垣

いし がき かい たい ちょう さ かい こ いし がき
石垣の解体調査をしたところ、その背後からも石垣が
あらわ っ なお
現れ、積み直しをしていることがわかりました。

Niju no ishigaki (Double stone walls)

If one dismantles and examines the stone wall even the back shows the structure of a stone wall, showing that reloading has taken place.



こんな塩梅



さて、ここは「稲荷曲輪」の北西側で、ここから「本丸」へと登る道と「稲荷曲輪」北側へ進む道とがある/正面に標柱が立っている



「史跡 甲府城跡」とある



こちらが「本丸」へと登る道



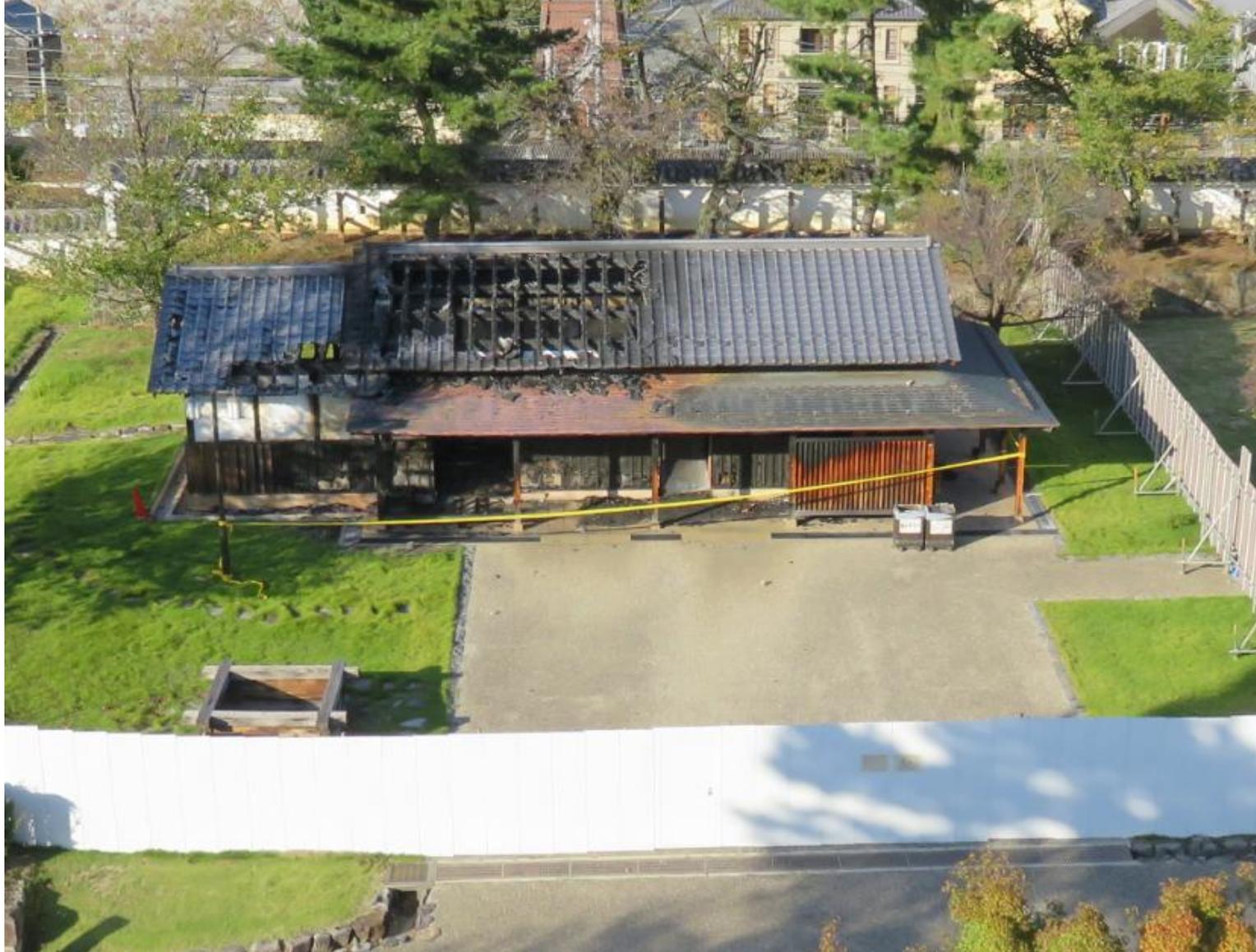
こちらは「稲荷曲輪」北側へ進む道/「稲荷曲輪」北側の左前方に「稲荷櫓」が見える/左手に何故か仮囲いがあった



その仮囲いを「本丸」から見たところ/囲いの中の建物の屋根が焼けている



アップで見たところ/この建物は「稲荷曲輪」北側の「煙硝鞍跡」に建てたトイレで、小火があったようだ/左手下にあるのは井戸跡



これが「稲荷曲輪」北側の北東側に位置する「稲荷櫓」



いなりやぐら 稲荷櫓

城内の鬼門（北東）に位置することから良櫓ともよばれ、江戸時代には武具蔵として使われていた建物です。明治初年まで残っていたことが古写真などでわかっており、発掘調査でも2度にわたり建物を建築した痕跡（遺構）と、土地の平安を祈るための輪宝（地鎖具）が6点見つかりました。

今の建物は、この遺構や残っていた絵図や史料などをもとに、できるだけ当時の姿に復元したもの、平成16年に建築しました。

櫓の外観 二階層 入母屋造り 瓦葺 白壁 窓 鯉 北・東側に石落とし

櫓の規模 南北(梁間)五間(10m) 東西(桁)六間(12m)

Inari Yagura (Turret)

This tower was built in the early Edo era and was used as a storage unit for weapons. It survived until the early Meiji era. The present building was restored as accurately as possible in 2004 in accordance with the photographs, paintings, and findings from the excavation.



1705年頃の甲府城「参内書写圖」より

左手には「稲荷櫓」の部材のモックアップがあった



稲荷櫓の壁について

土の壁を作るには、まず最初に土にワラを混ぜ込み腐らせて粘りけのある壁土を作ります。それを荒壁塗り・斑直し・中塗り・上塗りというように段々と細かい土を塗り、漆喰で仕上げます。

敵の攻撃や火災を防ぐために壁を厚くしていったようです。

稲荷櫓の壁について(大壁外側の場合)

壁塗り(左官)では今回の復元では「10回の工程」で進めています。

- 小舞掻き(こまいかき)・・・骨組みのこと。
- ①手打ち荒壁(てうちあらかべ)・・・壁土の最初
- ②大斑直し(おおむらなおし)・・・下げ縄2本入れ
(②～⑧まで順に砂の量を適宜増やし、細かくしていきます。)
- ③小斑直し(こむらなおし)・・・下げ縄2本入れ
- ④大斑直し(おおむらなおし)・・・縦縄入れ
- ⑤小斑直し(こむらなおし)・・・横縄入れ
- ⑥中塗下地大斑直し(なかぬりしたじおおむらなおし)・・・ムラを直す
- ⑦中塗下地小斑直し(なかぬりしたじこむらなおし)・・・ムラを直す
- ⑧中塗り(なかぬり)・・・土壁の最終工程
- ⑨上塗下地(うわぬりしたじ)・・・漆喰の下地(砂漆喰壁)
- ⑩上塗り(うわぬり)・・・完成(白漆喰壁)



屋根のはなし

瓦屋根では、まず設計図である「瓦割り図」を描きます。それから瓦を載せる下準備として、薄い板を何層にも竹釘で打ち付ける野地板葺きをします。この上に瓦受けの棧を付け葺き土を起きます。そして、瓦を乗せ数枚ごとに銅線でしぼり付け固定していきます。

瓦葺きの工程

屋根瓦は1690年頃に使用されていたと考えられる出土品瓦をもとに復元しています。

- ①屋根組・・・屋根の骨組み
- ②野地板葺き・・・檜の板を垂木に打ち付けます。トントンと音を立てながら打ち付けるので「トントン葺き」とも言われています。
- ③土居葺き・・・サワラ材を垂木を使い野地板に打ち付けます。
- ④葺土・・・瓦を葺く筋に土を盛ります。
- ⑤本瓦葺き・・・本瓦を葺いて完成です。

稲荷櫓では、平瓦8,491枚、丸瓦3,789枚、特殊瓦5,310枚、鯉瓦2個、鬼瓦18個が使われています。



石垣には線刻画もあるらしい

せん こく が 線 刻 画

城内の石垣石材には鳥や魚の絵や☆・×・井の記号が多く描かれています。これは築城当時に作業の安全を願った「おまじない」と考えられています。

Senkokuga (Line drawings)
Within the stones of the castle stone wall, various fish, birds, stars, and various symbols are drawn. These are thought to have been ways to ask for safety during the original construction period.



「稲荷櫓」の中は資料館になっていた



そこから西方向に「稲荷曲輪」北側を見たところ/左手が「本丸」



傍には石に楔を打ち込んだ状態の石と、それを鑿で叩いて割った後の状態の石が並べて置いてある



ここは「稲荷櫓」の南側にある、石垣の間を抜けて下へ降りて行く坂道



さて、ここは「本丸」の北西にある「内松陰門」



右手を見たところ/このエリアは「屋形曲輪」らしい



中へ進んでみよう



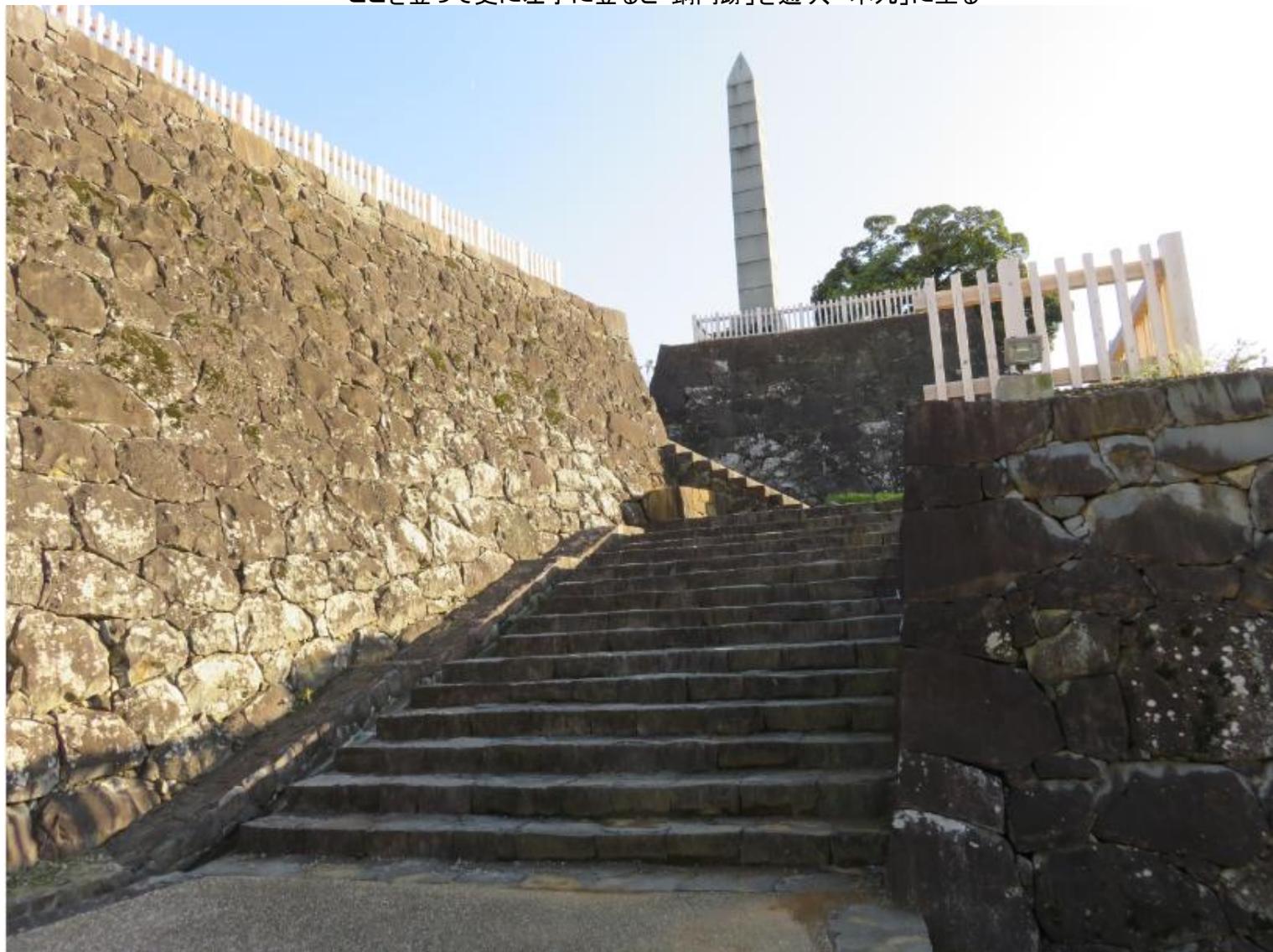
正面は「本丸」の石垣



階段を登り、右手に折れて登って行くと「本丸」へと至る



ここを登って更に左手に登ると「銅門跡」を通り、「本丸」に至る



「内松陰門」を横から見たところ/説明坂がある/ここで振り返ると「二の丸」のエリア



うち まつ かげ もん
内松陰門

屋形曲輪と二の丸をつなぐ門です。明治の初めまでは残っていたものを絵図や発掘調査の成果をもとに、平成11年に復元しました。

Uchimatsukagemon Gate

This is the gate which connects Yakatakuruwa and Ninomaru. The gate remained until the beginning of the Meiji era (as understood by old paintings and excavations), although it was restored in 1999.



さて、いよいよここから「本丸」へと進もう/左手は「本丸」の石垣



正面は「本丸櫓跡」



ほん まる やぐら あと
本丸櫓跡

じょう ない ちゅう しん やぐら めい し しょ ねん のこ
城内の中心に建てられた櫓で、明治初年までは残って
いたことが古写真でわかっています。

The Main Enclosure Turret

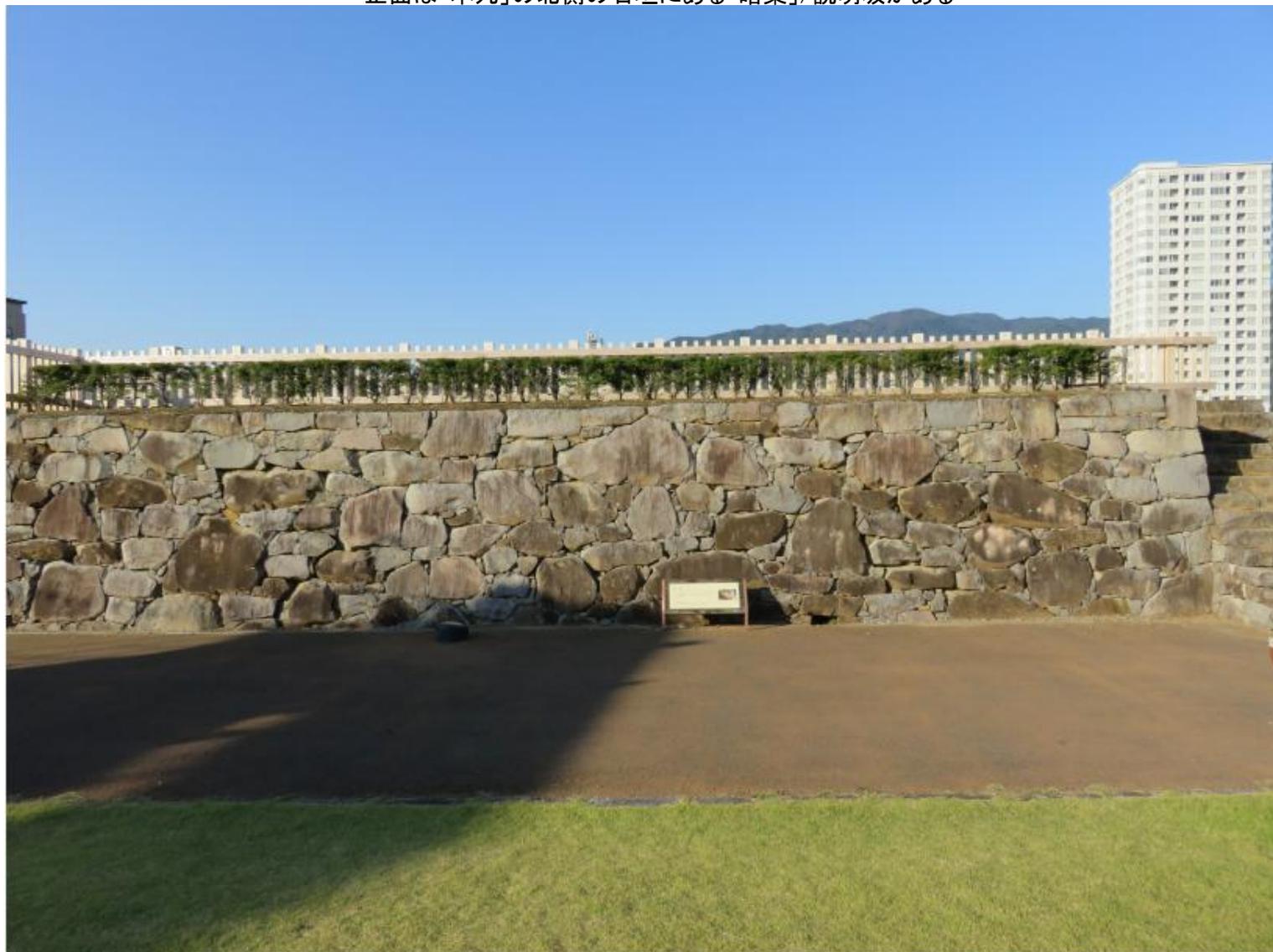
Located inside the castle's interior, it can be understood from old photographs that this turret remained until the beginning of the Meiji Period (1868-1912).



これは「本丸」の北西側から「天守台」の石垣を見たところ



正面は「本丸」の北側の石垣にある「暗渠」/説明坂がある



あん きよ 暗 渠

あま みず もり ど いし がき ない ふ いし がき ふ あん てい
雨水などが盛土や石垣内部にたまると石垣は不安定に
なるので効果的に排水する必要があります。暗渠はその
ための施設です。

Underground Duct

This duct was installed in order to drain water effectively due to a fear that water would build up within the stone walls and cause them to collapse.



この石垣の下の穴が「暗渠」



その北側の石垣越しに北西方向を見たところ/この方向が甲府駅で「楽屋曲輪」、「清水曲輪」のあったエリアのようだ



同じく北方向を見たところ/「稲荷曲輪」北側の仮囲いに囲まれた「煙硝鞍跡」に建てたトイレと井戸跡が見える/前方左手には歴史公園の山手渡櫓門も見える



その歴史公園の山手渡櫓門をアップで見たところ



同じく北東方向を見たところ/右手に「稲荷曲輪」北側にある「稲荷櫓」が見える



さて、これは「本丸」を北側から南方向に見たところ/右手に「鉄門」が見える/左手が「天守台」



これは南西側から「天守台」を見たところ



さて、「天守台」に登ってみよう



階段を登ると正面に説明板がある



てん しゅ だい 天 守 台

お城が建てられた当時の姿がそのまま残っています。
天守台はお城のシンボルとしての天守閣が建てられる場所です。

The castle's highest watchtower (Tenshudai)
The watchtower's structure has remained essentially unchanged from its initial planning to the present. Tenshudai is where the symbol of Kofu Castle, the dungeon, was constructed.



1700年頃の甲府城（赤丸は本丸）

そこで右手に「天守台」中央部を見たところ



反対方向に見たところ



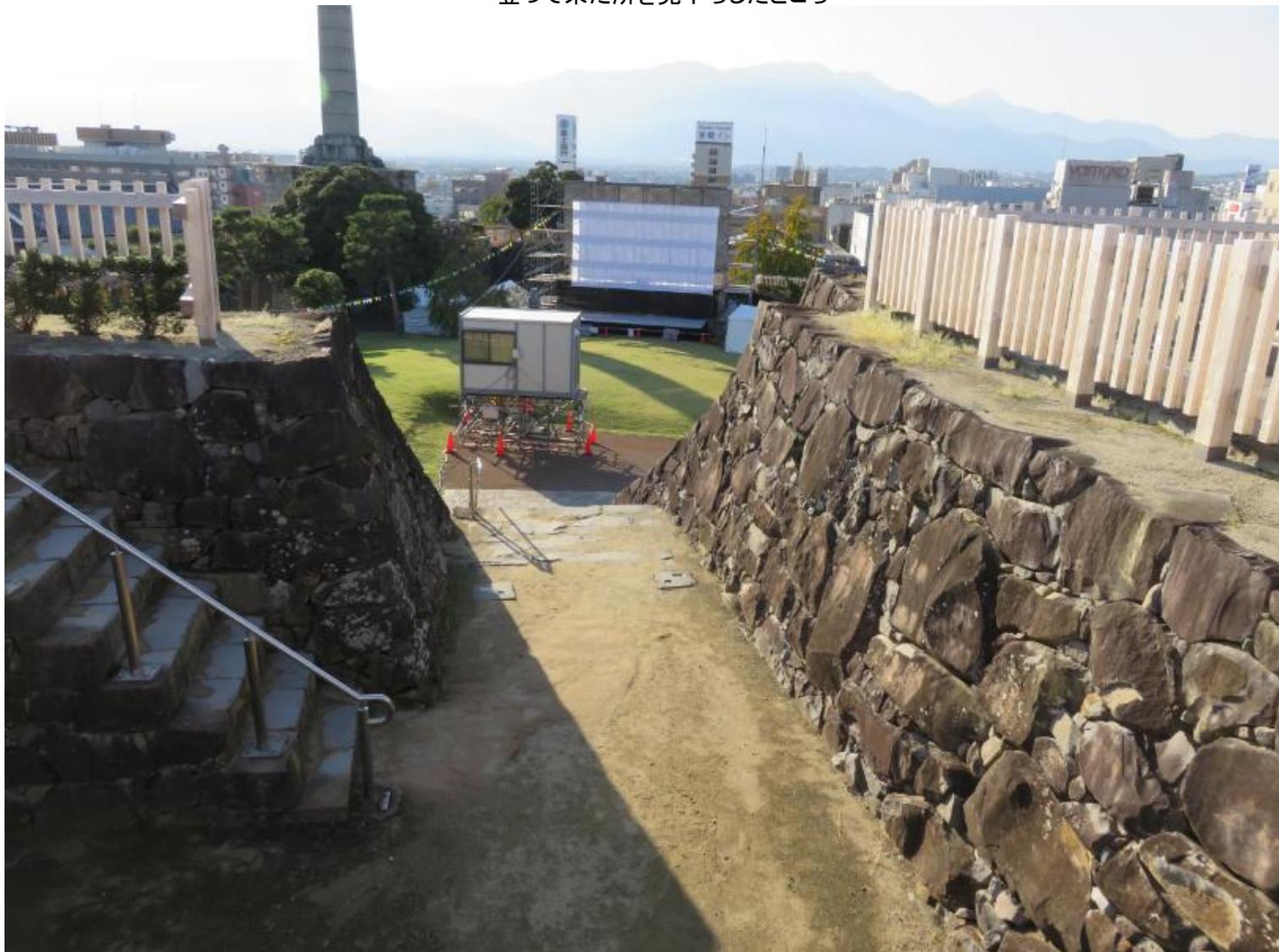
これは「天守台」の上に立って北西方向を見たところ



こんな標柱が立っていた



登って来た所を見下ろしたところ



「天守台」から「本丸」を西方向に見下ろしたところ



同じく南側ですぐ下にある、「天守曲輪」の先を東方向に進んだ所にあった小規模な建物跡のようなスペースと、更にその下にある「鍛冶曲輪」を見たところ



同じく東側で「稲荷曲輪」東側を見下ろしたところ/正面遠方に塔が見える



アップで見たところ/長禅寺の五重塔であろうか



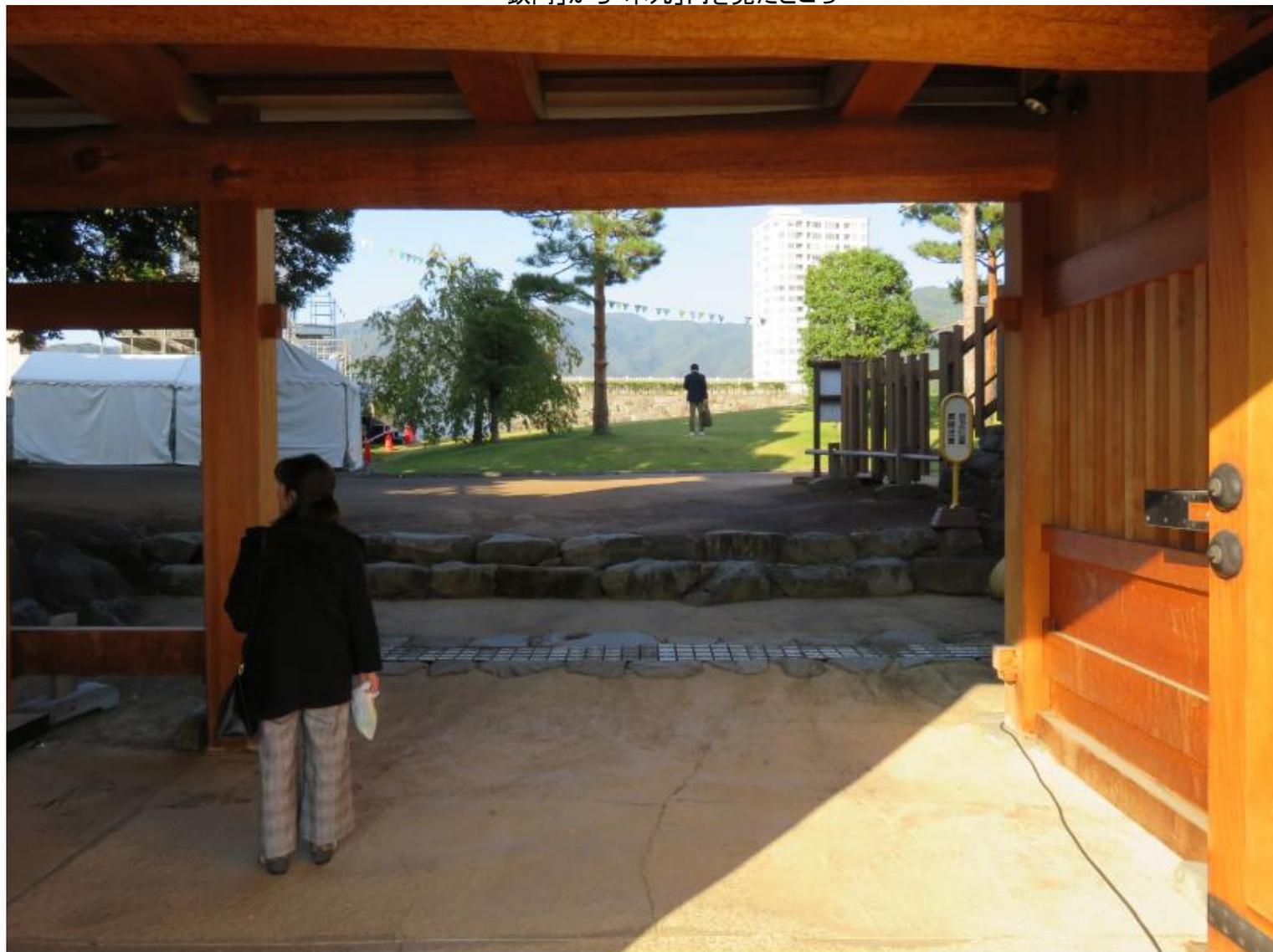
これは北東方向の「稲荷櫓」を見下ろしたところ



さて、これが「鉄門」/左手の階段を登ると見晴らし台があり、そこから「鉄門」の2階にある展示室に入れる



「鉄門」から「本丸」内を見たところ



北東方向に「本丸」と「天守台」を見たところ



「鉄門」の2階にある展示室に入ってみよう





甲府城追手門の発掘調査

調査の概要

調査年度 令和元年(平成31年)調査
調査期間 平成31年4月15日～5月15日
調査の経緯と目的

平成31年度は、甲府城跡の発掘調査により、調査区域の南側に追手門の遺構が確認されました。調査区域の南側の遺構は、追手門の遺構と推定され、追手門の遺構として取り上げられ、調査が行われました。調査の結果、追手門の遺構が確認され、追手門の遺構と推定されました。

甲府城跡、その中でも甲府城跡の南側に追手門の遺構が確認されました。追手門の遺構は、追手門の遺構と推定され、追手門の遺構として取り上げられ、調査が行われました。調査の結果、追手門の遺構が確認され、追手門の遺構と推定されました。

追手門の遺構は、追手門の遺構と推定され、追手門の遺構として取り上げられ、調査が行われました。調査の結果、追手門の遺構が確認され、追手門の遺構と推定されました。

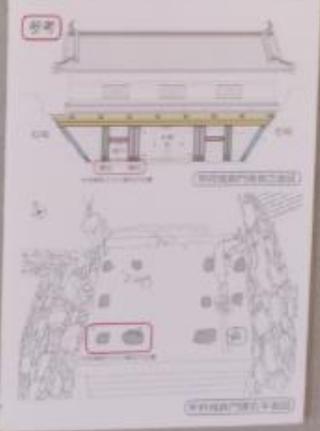
追手門の遺構は、追手門の遺構と推定され、追手門の遺構として取り上げられ、調査が行われました。調査の結果、追手門の遺構が確認され、追手門の遺構と推定されました。

甲府城追手門遺構の発掘地点と結果の概観

追手門の遺構は、追手門の遺構と推定され、追手門の遺構として取り上げられ、調査が行われました。調査の結果、追手門の遺構が確認され、追手門の遺構と推定されました。



追手門の遺構は、追手門の遺構と推定され、追手門の遺構として取り上げられ、調査が行われました。調査の結果、追手門の遺構が確認され、追手門の遺構と推定されました。



追手門の遺構は、追手門の遺構と推定され、追手門の遺構として取り上げられ、調査が行われました。調査の結果、追手門の遺構が確認され、追手門の遺構と推定されました。

鉄門復元工事の流れ

鉄門は、平成22年(2010)春に着工し平成24年(2012)冬に完成しました。ここでは着工から完成までの流れを紹介します。

石工事

鉄門完成後は両側の石垣の補修が困難になるため、まずは石垣の補修工事から始めました。今回の復元工事では遺構の礎石を使用するため、割れた礎石の補修をおこない、失われた礎石は同等の礎石材で補いました。



礎石による補修をした鉄門遺構の石垣



新石材の礎石を施工する様子

木工事

鉄門の材料は全て国内産を使用しています。材料の選定から木材の組み方まで十分に調査し、長く後世に残る復元を目指しました。継手・仕口を巧みに使い分けて木を組み合わせる様も見られます。



使用する木材に不備がないか点検する様子



石垣に残る武の跡に約1トンの積木を合わせる

屋根工事

今回鉄門で使用した瓦は28種、約8000枚です。鉄門の歴史館に沿うよう委員会の指導を頂きながら、甲府城跡の出土品を復元しました。瓦を敷く前には、竹釘で薄い杉板を貼る“土締育き”をおこないます。その後、平瓦と丸瓦を交互に組んで土でつける“本瓦葺き”で葺かれました。



屋根骨の上に薄く竹釘を貼る土締育きの様子



出土品をもとに製作した瓦瓦をのせる様子

左宮工事

漆喰塗りや仕上られる際は、竹で骨組みを作る小舞かきから、足腰つけ、造直し、中塗り、土塗りなど約8回塗り重ねます。手作業で素早く丁寧に塗られた際は、防火性に優れた強固なものとなっています。



壁の骨組みである小舞



時間をかけて壁を見ながら仕上げる

鉄門の復元整備

鉄門の復元整備にあたっては、長い年月、県民や学識者の方々の考えや協力を得ながら、一歩ずつ進んできました。

特に復元根拠となる発掘調査や絵図、古文書、古写真の基礎的研究はとても重要です。この基礎的研究と学際的な検討が復元事業の方向に大きく影響します。

現場でも土木技術者や職人、行政機関、関係委員会が三位一体となり文化財に向き合い、その成果として鉄門が現代によみがえりました。



各地の絵図調査や古写真の解析を踏まえ、鉄門の歴史的な姿を解明しました。



事業にあたっては、地域の方々や学識者の指導・助言を受けながら進めました。



発掘調査から鉄門の存在を確認し、遺構や礎石を明らかにしました。また、石垣にも礎石の痕跡が残っており、鉄門の高さを決定する根拠となりました。

鉄門の構造

史実と伝統工法に基づいて、幕末の姿かたちを復元した鉄門。ここでは、100年以上の時を越え私たちの前によみがえった鉄門の構造に迫ります。

復元においては、伝統的な技術で実施していますが、法令や安全性から現代的な補強を導入している部分もあります。



南側立面図



梁間断面図

鉄門の構造

規模	二階一戸建門付遺構門
	本館、入母屋造、本瓦葺、柱貫四角付
	一階東側縁起付
	一階：桁行 7.879m、梁間 4.945m
	二階：桁行 12.726m、梁間 5.454m
面積	延床面積：75.19㎡(約 2.5 坪)
	建築面積：70.81㎡
築年	軒高数：116.40 尺
	遺構である部分を利用しながら、部分的に新築コンクリート基礎を造る
外壁仕上	一階和紙
内装仕上	二階土壁、小舞下地、土壁、白漆喰仕上
	土間瓦葺、白漆喰仕上
屋根	一級瓦、片流れ、本瓦葺
	大屋根、入母屋造、本瓦葺
	大棟、両棟、隅棟を納め、大棟筋に瓦瓦、懸瓦を配える

主要材料産地一覧

部材	品名	産地
床材	ケヤキ材	岐阜県、長野県
	杉材	岐阜県、福寿島
	ヒノキ材	岐阜県赤松郡
壁材	杉材	山梨県
	土	愛知県瀬戸市
	砂(吹砂)	岐阜県多治見市
	砂(中砂り等)	山梨県
	竹	山梨県
屋根	わらずき	埼玉県
	漆喰	熊本県
	瓦	高知県
土	瓦用土	愛知県瀬戸市、豊田市
	敷き土	山梨県
建具材	土壁養生材	長野県
	アサキ材	岐阜県、熊本県方面
	ヒノキ材	熊本県日立

甲府城の歴史

甲府城は戦国大名武田氏の滅亡後に築かれた城です。豊臣秀吉による徳川家康の関東移封後、順次築城を命じられていた浅野長政・幸長父子のころ(文禄・慶長年間)に完成したと考えられています。

江戸時代初期は徳川将軍家一門が城主でしたが、宝永元年(1704)年時の城主徳川綱豊が5代将軍綱吉の養子となると、綱吉御用人の柳沢吉保が城主となりました。柳沢氏は約20年間甲斐国をおさめ、積極的に城内の御殿の新築や石垣の改修、城下の再整備をおこない、城下もおおいに繁栄しました。

享保9年(1724)、柳沢氏は移封となり、幕末まで幕府直轄の甲府勤番制度のもと管理されました。この後、享保年間の大火災で多くの建物を焼失しましたが、大規模な修理が実施されることはありませんでした。

明治時代以降、城内の建物はすべて取り壊され、次第に市街化されていきました。現在は本丸を中心とした一部が、県指定史跡甲府城跡として保護されています。

鉄門の名称と柳沢氏

宝永年間に城の再整備をおこなった柳沢氏は、このとき城内の曲輪や門の名称などを一新しました。

それまで南門とよばれていた鉄門は、このときから「鉄門」とよばれるようになりました。



幕末から明治初年の甲府城の姿(三沢一也氏蔵)
船荷物、数寄屋櫓、津波堀などが写る

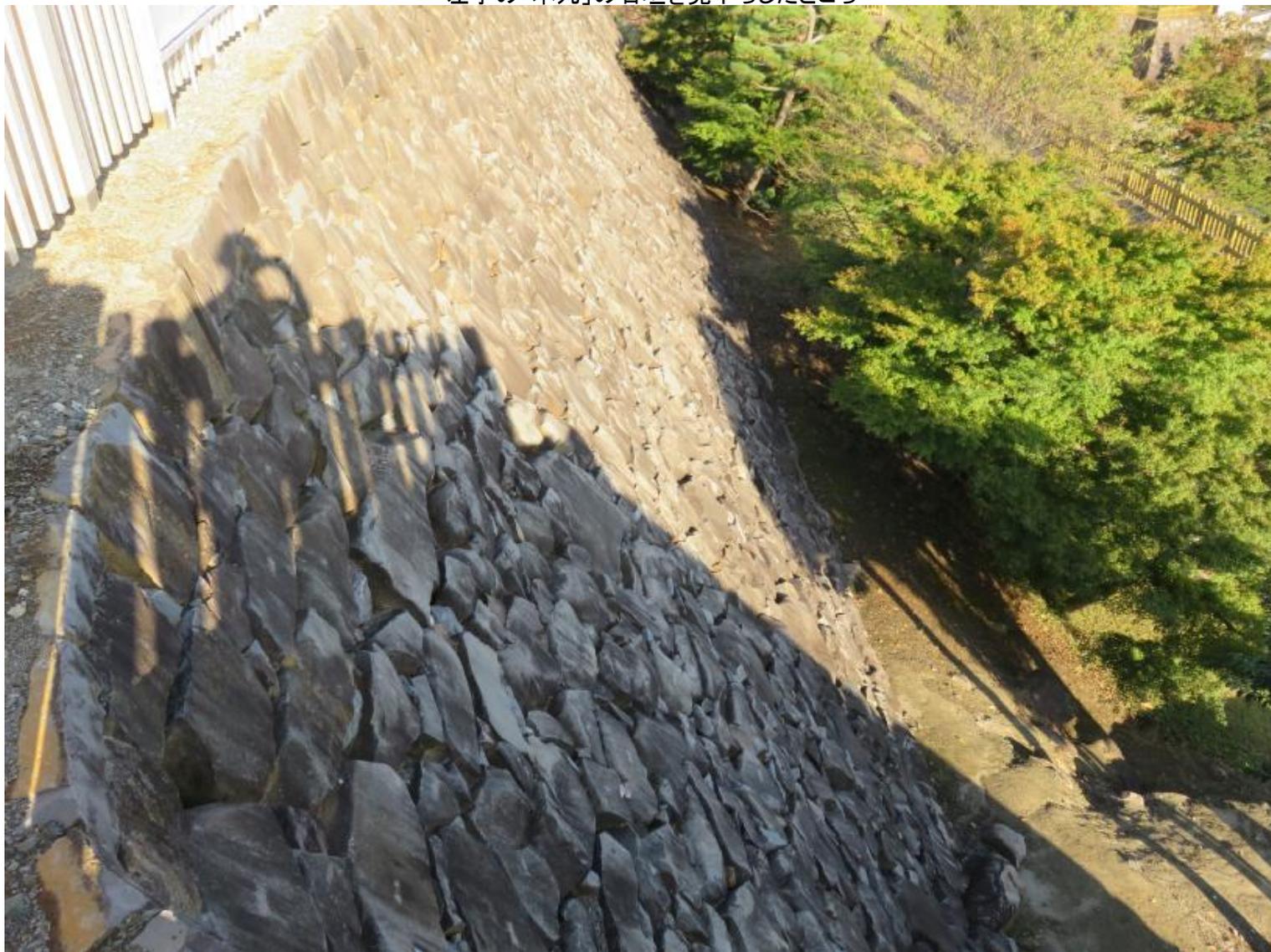
展示室を出て見晴らし台から北東方向に天守台を見たところ



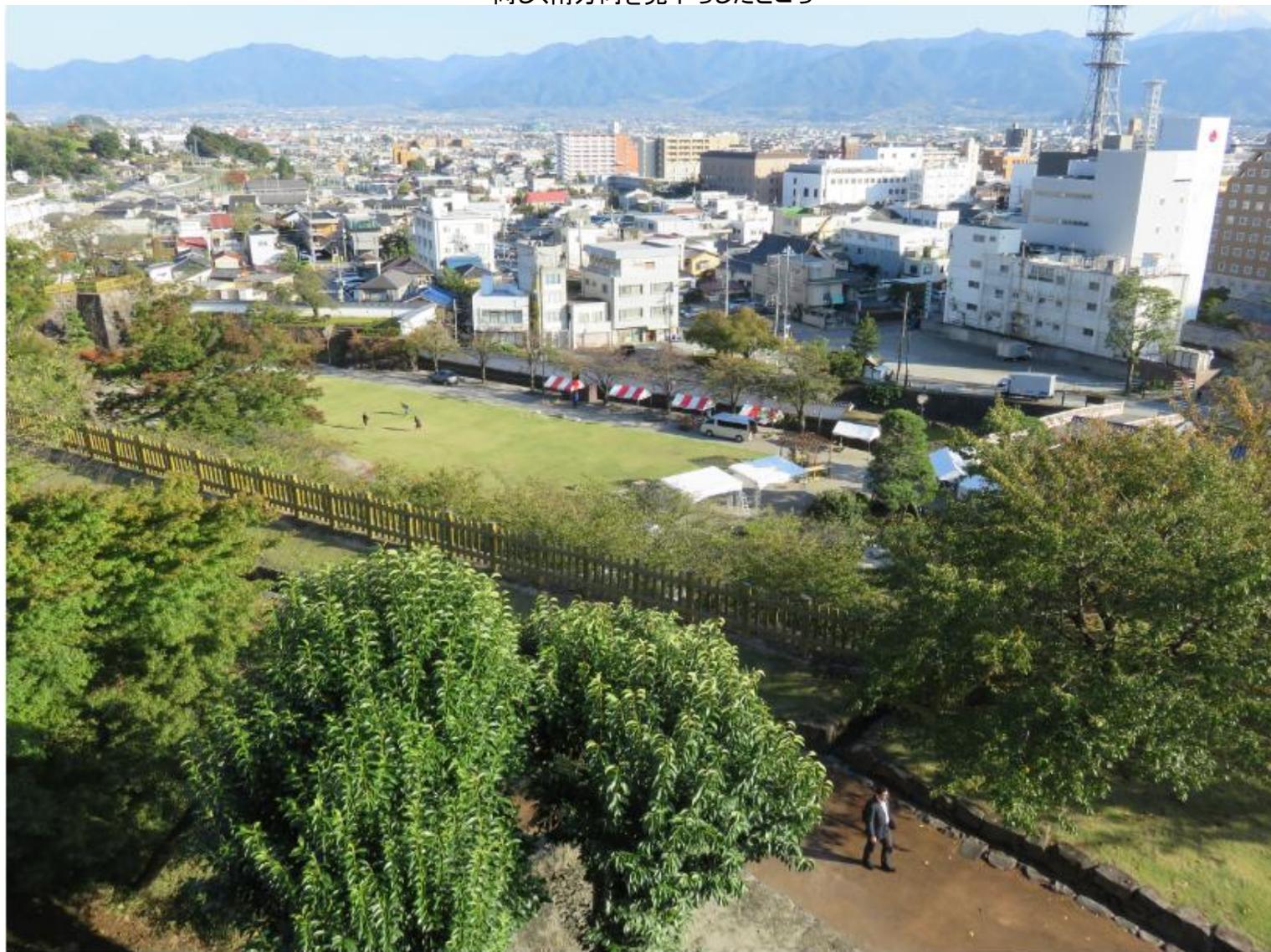
見晴らし台で南東方向を見下ろしたところ



左手の「本丸」の石垣を見下ろしたところ



同じく南方向を見下ろしたところ



同じく南西方向を見下ろしたところ/すぐ下は「中の門跡」とその左手の櫓跡のようなスペース



さて、これは「本丸」の南西隅にある謝恩塔



こんな塩梅



これは謝恩塔の付近から北方向を見下ろしたところで正面の坂は左手の「内松陰門」から登って来る所で、手前右手の階段を登ると「本丸」手前の「銅門跡」がある



これは左手の「内松陰門」を見下ろしたところ



さて、最後に周囲を回ってみよう/これは南側から見たところで、正面の橋は遊亀橋という新しい橋(当時の橋ではない)



その橋から右手を見たところ



橋を渡り切ったところ



振り返って遊亀橋を見たところ



そこで右手を見たところ



ここは南東の角/右手方向へ進んでみよう



正面の石垣の上は「数寄屋曲輪」の「数寄屋櫓跡」のエリア



道路を城跡を回り込むように進むと「稲荷曲輪」東側の「稲荷櫓」が見えた



元に戻る途中、「稲荷曲輪」南側の石垣を見たところ



近づいて見たところ/説明坂があった



その高石垣(築城時の野面積み石垣)を見たところ



その左手を見ると「数寄屋曲輪」の石垣が続いている



参考ホームページ

<http://iyokakuzukan.la.coocan.jp/008yamanashi/052koufu/koufu.html>

<http://www.geocities.co.jp/SilkRoad-Lake/4393/yamanasi/kouhusi.htm>

<http://kahoo0516.blog.fc2.com/blog-entry-47.html>

<http://www.pcpulab.mydns.jp/main/koufujyo.htm>

<http://pomehouse.com/3po/shiro/etc/kofu/index.html>

<http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/ko-fu zyou/koufu jo new/iyounai tanken.html>

<https://kofu-castle.jimdo.com/>

<http://www.asahi-net.or.jp/~qb2t-nkns/kofu.htm>

<http://www.geocities.jp/qbpb900/koufujyo.html>

